

基本構想における「将来のまちの姿」(キャッチフレーズ) 案

委員の方からのご提案

伊藤委員からのご提案

A

豊かな美しいまち 豊浦

～どこかなつかしい賑わいのあるまちを目指して～

【解説】

定住・移住・観光客等、交流人口拡大で、町内の消費や購買力拡大を図り、地域経済活性化、さらには、関連産業の振興を目標とし、自然豊かな美しいまちを将来へ継承していきたい

高橋委員からのご提案

B

協働でつくる豊かなふるさと

C

未来へつなぐ協働の輪・豊かで安心 いいべさ豊浦

D

明日へつなぐ地域の思い・いきいき・きらきら豊浦町

事務局提案

E

超えて、つながり、生きるまち
～未来志向が創り出す輝ける豊浦～

【解説】

「時」を超えて将来へ、「人」を超えて様々なつながりで課題に立ち向かい、「これまでの意識」を超えて新たな魅力づくりを。10年後の豊浦の未来に向けて、町民みんなで、「生きた」(生きがい・生き生きした)まちをつくっていく。

F

ひとの輪、まちの和、とようら
～「わ」で創る豊浦らしいまち～

【解説】

人間関係が豊かな豊浦町。噴火湾の“環”の中で、人との“輪”、街並みの調和の“和”、和やかな“和”、平和の“和”、それぞれの意味がある「わ」でまちをつくる。町民のやさしさ、穏やかさ、町に流れる穏やかな空気を輪と和で示す。

G

人とつづく 人のまち とようら
～一人ひとりの営みの先に豊浦がある～

【解説】

豊浦町は、人に寄り添い、人と良い関係をつづいていけるまち。人のチカラの結集しつづけることが、この先の町の発展となる。町民とつづいて存在できる町として、町のつづき=未来を示す。

H

「人の中」にあるまち とようら
～みんなで考え、みんなで創る～

【解説】

まちは人によってつくり、人によって維持されている。豊浦は、日々の生活の中に、しっかりと寄り添うことができるまち。小さいけれども、故郷の思い出、観光の思い出、として「人の中」(=心)に残るまち。町民が人とまちの魅力を知り、共感できる町の魅力をつくりだし、発信していく。